

【追悼文】

鳥山英明校長を偲んで

京都医療科学大学 教授 西谷 源展



平成25年8月21日、いつものようすに寝転んで朝刊を読んでいた。経済欄を読み始めたときに、島津製作所元取締役、鳥山英明氏のお名前が、計報という文字と共に目に飛び込んできた。このときに鳥山校長が逝去されたのを知った。当日行われたお通夜に参列してご冥福を祈った。

一昨年3月、突然に電話を頂戴した。「一度大学に伺いたい。専門学校移転時に植えた桜の木も大きくなっただろうから、人生の最後に一度見ておきたい」とのことであった。専門学校から勤務する教員は君だけしかいないので是非頼むとも言わされた。それなら大学の入学式の日にお越しいただき、入学式にも参列してくださいと申し上げた。当日は、少し歩行が不自由ということで車で園部駅まで出迎えた。入学式の後、昼食後に桜を見て、「思ったよりは大きくなっていない、でもこれが見納め」と言われたが現実になってしまった。

私が鳥山先生と初めてお会いしたのは、医用機器事業部工場長として在任されているときで、私は専門学校に就職して2年目、当時は新卒業生を招いて島津製作所がレストランで食事会を開いてくれた。その後に山田勝彦先生と私達をスナックに誘われ、ついて行ったのが先生との最初であったと記憶している。

昭和57年6月に島津製作所取締役を退任して、専門学校の副校長として赴任された。当時、卒業生から要望の高かったのは早期に短期大学への昇格であった。これを実現させるために赴任されたのであった。昭和58年、10月に中堀孝志校長の後任として校長に就任され、短期大学の実現の為に精力的に活動された。専門学校もこの年度から「京都医療技術専門学校」と改称した。昭和59年には短期大学用地の確保、昭和60年に造成工事、新校舎建設となり、ようやく短期大学の設置申請までこぎつけ、平成元年に「京都医療技術短期大学」が誕生した。就任以来7年近い歳月を要したが、鳥山先生の粘り強い努力があったから実現したものと思っている。その後も、平成3年まで短期大学教授として放射線機器工学を教えられている。

私の上司としての先生は、部下の面倒を良く見ていただいた先生であった。専門学校校長の中では最も教職員を大事にしてくださった先生であった。毎年の忘年会は先生の発案で、自ら車を運転して温泉地への1泊の旅行であった。当時、車を運転できる男性教職員は鳥山校長と一番若い藤本信久先生だけで、我々(出嶋、山田、西谷)は酒を飲むだけの楽しい旅行であった。

鳥山先生をお送りした今、短期大学設立に向け一丸となって頑張ったことや、良き専門学校時代の思い出が走馬灯のように頭に浮かんできます。4年制大学の礎となった専門学校、短期大学を育てられた先生のご功績に感謝し、追悼の言葉とします。

合掌